上杉文華館 目録
2026年8月26日（木）～9月23日（水祝）
西からの手紙⑥～北陸の大名(1)

	資料名	員数	法量　(㎝)	時代	作者	所蔵
複製	上杉本　洛中洛外図屏風	六曲一双	各160.4×365.2	原本　永禄8年（1565）	狩野永徳	上杉博物館
国宝	上杉家文書 畠山義綱書状	一通	19.7×39.3	（年未詳）６月10日		上杉博物館 文760
国宝	上杉家文書 武田信景書状	一通	11.2×27.0	（永禄10年・1567）８月19日		上杉博物館 文146
国宝	上杉家文書 斯波政綿書状	一通	21.6×49.3	（大永4年・1524）10月９日		上杉博物館 文50
国宝	上杉家文書 朝倉景連書状	一通	33.8×41.0	（永禄8年・1565）６月16日		上杉博物館 文463

2026年度の上杉文華館は「西からの手紙」と題して、国宝「上杉家文書」などを展示します。

書状は一定の規則に則って書かれました。このような規則を書札礼といい、差出人と受取人の関係が反映されていました。それをまとめた書札礼書も作られました。そこには差出者の社会的地位に応じた規範が示されています。その適用は厳密であり、ゆえに実際の書状の書き方から両者の関係を知ることもできます。

2023年度コレクション展および2025年度上杉文華館では戦国時代の上杉氏に主に東国の領主から送られた書状を、2025年度コレクション展では上杉謙信や景勝、その家臣らが発給した書状について、書札礼や使用された料紙などについて検討し、展示しました。

2026年度の上杉文華館では、戦国時代に京都やその周辺、中国地方など、越後より西の地域の大名や領主から長尾上杉氏に送られた書状を対象に、書札礼や使用された紙などについて検討し、展示していきます。東国の領主や上杉氏との相違なども意識しながら、その特徴などを明らかにしていきます。

第6回は、北陸、具体的には越前や若狭（以上、福井県）、加賀（石川県）の領主をとりあげます。これらの地域は、越後から京都へ通じる陸海のルート上に位置していました。したがって、幕府との関係を重視し、上方へ越後の特産品である青苧を輸送する長尾・上杉氏にとって重要な地域であり、友好的な関係を築いておく必要がありました。

今回展示している4通の宛名の書き方、そして書止文言や差出の書き方などから、それぞれの差出人と受取人の関係が浮かび上がってきます。それについて具体的にみていきます。

「国宝上杉本洛中洛外図屏風」は、現状に基づいて制作した2001年制作の複製Bを展示します。